

総務建設委員会 活動報告

令和6年度 牧之原市議会

【委員長】 濱崎一輝 【副委員長】 松下定弘
村田博英 中野康子 加藤彰 絹村智昭 石山和生

政策提言に向けた 『所管事務調査』

牧之原市議会では委員会ごとに
所管事務調査事項を定め、1～2年で調査研究
を行い、市に政策提言を行っている

そこで、総務建設委員会では・・・

2つのテーマを選定

1年目

①地域資源を活かした農業振興について

2年目

②移住・定住人口増加に向けた
職住近接施策について

①地域資源を活かした農業振興について

市の基幹産業であるお茶に焦点を絞り

◎お茶を中心とした複合経営支援について

- (1) 市の所管課による勉強会（市内農業の現状と課題）
- (2) 県経済産業部農業局による勉強会（県の取り組み、方針、課題等）
- (3) 波乗りレモン部会との市民会議（お茶との複合経営の現状や課題等）



(4) 県外先進地視察（4箇所）

① 福井県若狭町・（有）かみなか農楽舎「就農支援」

行政×集落住民×民間企業が連携「就農定住研修事業」

宿泊型農業研修施設を整備し、都市部の若者を呼び込み担い手不足を解消。

2年間の研修に対し年間2～3名を受け入れ、これまで卒業生の半数以上が若狭町に定住。



②滋賀県東近江市「高収益農業を実現するための取り組み」

市と4つのJAが出資し、地域商社（株）東近江めぐりステーションを設立。中規模流通システムを構築し、計画生産、安定買い取り、需要予測、地域内流通と徹底した管理体制を行い、大規模農家だけではなく中小及び個人農家も参加している。

また、高収益作物生産振興事業として、多種多様な野菜の生産への転換を支援している。



③滋賀県甲賀市「市の特産品であるお茶に関する取り組み」

お茶に関するオーガニックビレッジを宣言し、有機農業
実施計画を策定。また、市の新たなブランドとして、

「土山一晩ほうじ茶」を誕生させ、国内外へ普及を目指し、
首都圏でのPRに力を入れている。



④ 京都府和束町「宇治茶の郷づくり」

宇治茶の40%近くを生産する京都府内トップの最大産地であり、抹茶の原料となる碾茶の生産は全国トップクラス。お茶の生産だけでなく、お茶畑の景観にも価値を見出し、観光事業にも力を入れている。



調査・研究の成果として 「大きく4点」を提言書 としてまとめた

(要旨)

1. 複合経営支援について

- ① **茶+αとしての複合経営を後押しするため、高収益作物の振興について多種多様な補助メニュー等の整備を検討すること。**
- ② **「波乗りレモン」のブランド力が上がることで、お茶の価値が上がっていくことも考えられることから、生産から販路開拓に至るまでの多面的支援策について検討すること。**



(提言書)

2. 担い手不足対策について

- ① **新たな担い手として、マリンスポーツに興味のある都市部の若者が考えられる。農業に興味を持つ若者が、就農後の生活がイメージできるよう、体験宿泊型農業研修施設の整備について検討すること。**
- ② **安心して後継者に事業継承できるよう、特に中小及び家族経営などの小規模農家に対する必要な支援策について検討すること。**
- ③ **新規就農者の居住地確保の観点から、農地の非農地化（青地→白地）を進めていく必要性を強く感じる。土地改良事業による宅地を含む非農地域（施行地域面積の3割まで）の設定等の活用を検討し進めること。**
- ④ **担い手不足への対応として、外国人労働者という観点がある。新たな法制度（育成就労制度）の施行に当たり、外国人を雇用している農家及び今後外国人の雇用を考えている農家に向け、必要な支援を行うこと。**

3. 販路及び消費拡大と情報発信について

- ① 海外での緑茶需要の高まりから、有機碾茶の需要が今後更に高まっていくことが予想される。茶園の基盤整備事業を活用して有機栽培推進エリアを設定するなど、有機栽培の促進について検討するとともに、有機栽培を推進する農家への支援を図ること。
- ② 近隣市では、生産者が安心感と公平感を持って経営を持続的に行えるよう取り組んでいる。当市においても同様の課題があるものと認識していることから、当該取り組みについての検証を行うこと。
- ③ 現在は茶の需要が減り、当市だけではなく県全体として茶業界が低迷しているという状況があることから、県及び県内各生産地と連携し、「静岡茶ブランド」の付加価値の向上に向けた取り組みを行うこと。

- ④ **新たな大手飲料メーカーとの契約栽培や企業誘致は有効と考える。また、大手飲食店・地元飲食店・産学官などが連携したオリジナルブランド商品の開発を推進するとともに、情報発信する仕組み等についても検討すること。**

4. 景観及び観光について

- ① **お茶に景観という付加価値をつけて多くの観光客を呼び込むことは、お茶の需要を高めることにもつながると考える。この景観をいかした観光ルートの開発やツアーの実施について、関係者と協議すること。**

以上



「提言書」を市に提出

②移住・定住人口増加に向けた職住近接施策について

テーマ選定の背景

当市は、人口一人当たりの製造品出荷額が県内でも高い水準を誇っており、製造業が盛んなまちである。しかし、昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口の比率）が県内トップとなっている（100を超えている）ことから、当市へ働きに来ている人は多いが、定住している人は少ないことが明らかとなっている。

当市が今後発展していくためにも、若者の人口流出という大きな課題を解決することが重要であることから、若者が自由な職業選択ができるよう多種多様な企業誘致を進めるとともに、定住人口を増やすための魅力ある住宅施策（※職住近接施策）が必要である。

※職＝職業（仕事）、住＝住宅（住まい）

②移住・定住人口増加に向けた職住近接施策について

これまでの取り組み 市の所管課による勉強会

(1) 産業経済部による勉強会

- スタートアップ支援事業、創業支援事業

(2) 都市住宅課による勉強会

- 移住・定住促進事業、空家対策推進事業、空家利活用推進事業

直近の取り組み 移住者との市民会議

このテーマについては、
これからも引き続き調査・研究を進めてまいります。

令和6年度 牧之原市議会

総務建設委員会活動報告

ご清聴いただき

どうもありがとうございました